

貯蓄の状況

1 概要

(1) 二人以上の世帯の貯蓄現在高は1658万円で0.4%の減少

平成24年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は1658万円で、前年に比べ0.4%の減少となった。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値^注（金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値）は1001万円（前年991万円）となった。また、年間収入は606万円で前年に比べ1.0%の減少となり、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は273.6%で、前年に比べ1.7ポイントの上昇となった。

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合51.9%）についてみると、貯蓄現在高の平均値は1233万円で前年と同水準となり、中央値は757万円（前年729万円）となった。二人以上の世帯全体と比べると、平均値、中央値共に低くなっている。また、年間収入は691万円で前年に比べ0.3%の増加となり、貯蓄年収比は178.4%で前年に比べ0.6ポイントの低下となった（表1、図1）。

表1 貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	中央値 ^注 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
二人以上の世帯						
平成14年	1688	683	-	-	247.1	1022
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1027
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1024
17	1728	645	2.1	-0.8	267.9	1052
18	1722	645	-0.3	0.0	267.0	1008
19	1719	649	-0.2	0.6	264.9	1018
20	1680	637	-2.3	-1.8	263.7	995
21	1638	630	-2.5	-1.1	260.0	988
22	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
23	1664	612	0.4	-0.6	271.9	991
24	1658	606	-0.4	-1.0	273.6	1001
うち勤労者世帯						
平成14年	1280	748	-	-	171.1	817
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2	808
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4	805
17	1292	719	1.5	-1.5	179.7	807
18	1264	713	-2.2	-0.8	177.3	772
19	1268	718	0.3	0.7	176.6	783
20	1250	717	-1.4	-0.1	174.3	757
21	1203	709	-3.8	-1.1	169.7	754
22	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743
23	1233	689	-0.9	-1.1	179.0	729
24	1233	691	0.0	0.3	178.4	757

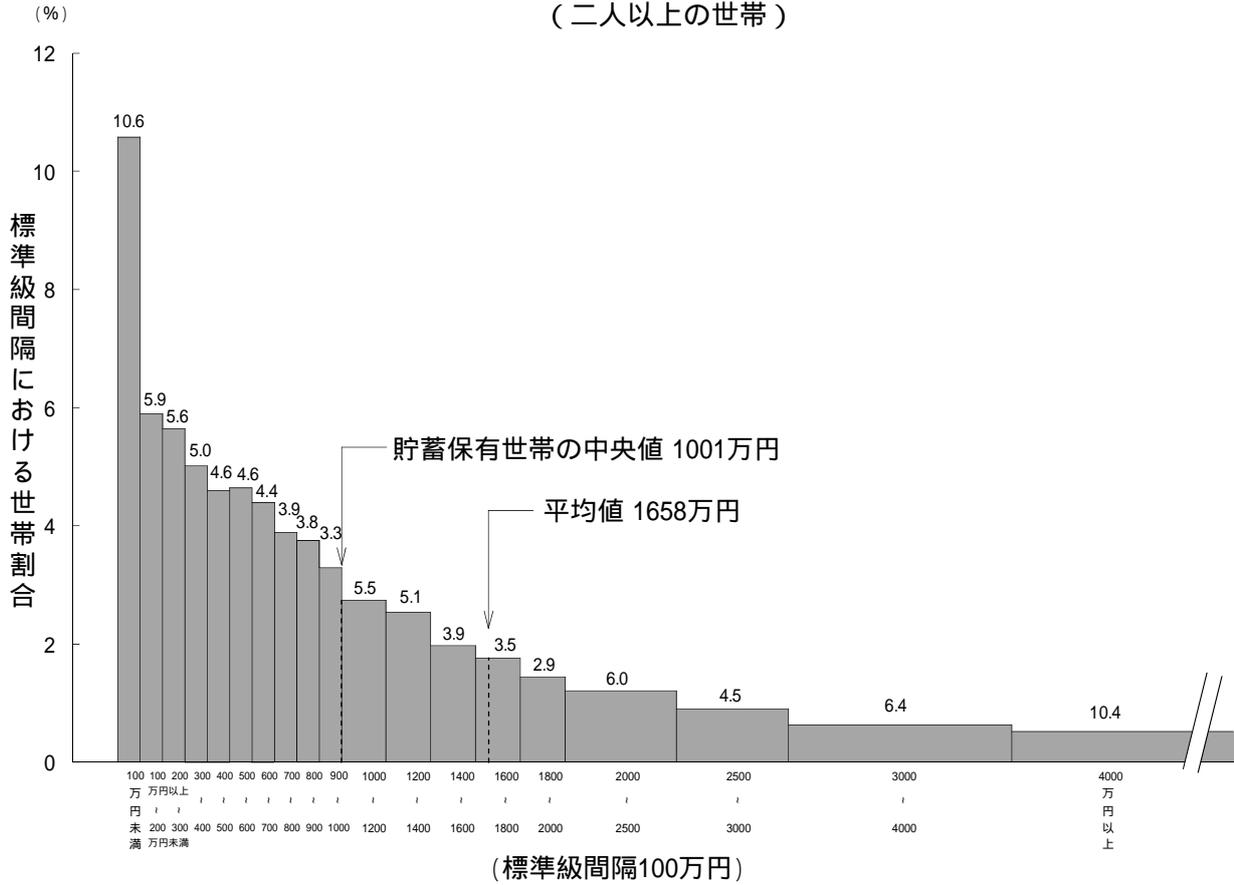
（注）中央値を求める際には、金額が「0」の世帯は含めていない。以下同じ。

(2) 貯蓄現在高が100万円未満の世帯の割合は10.6%

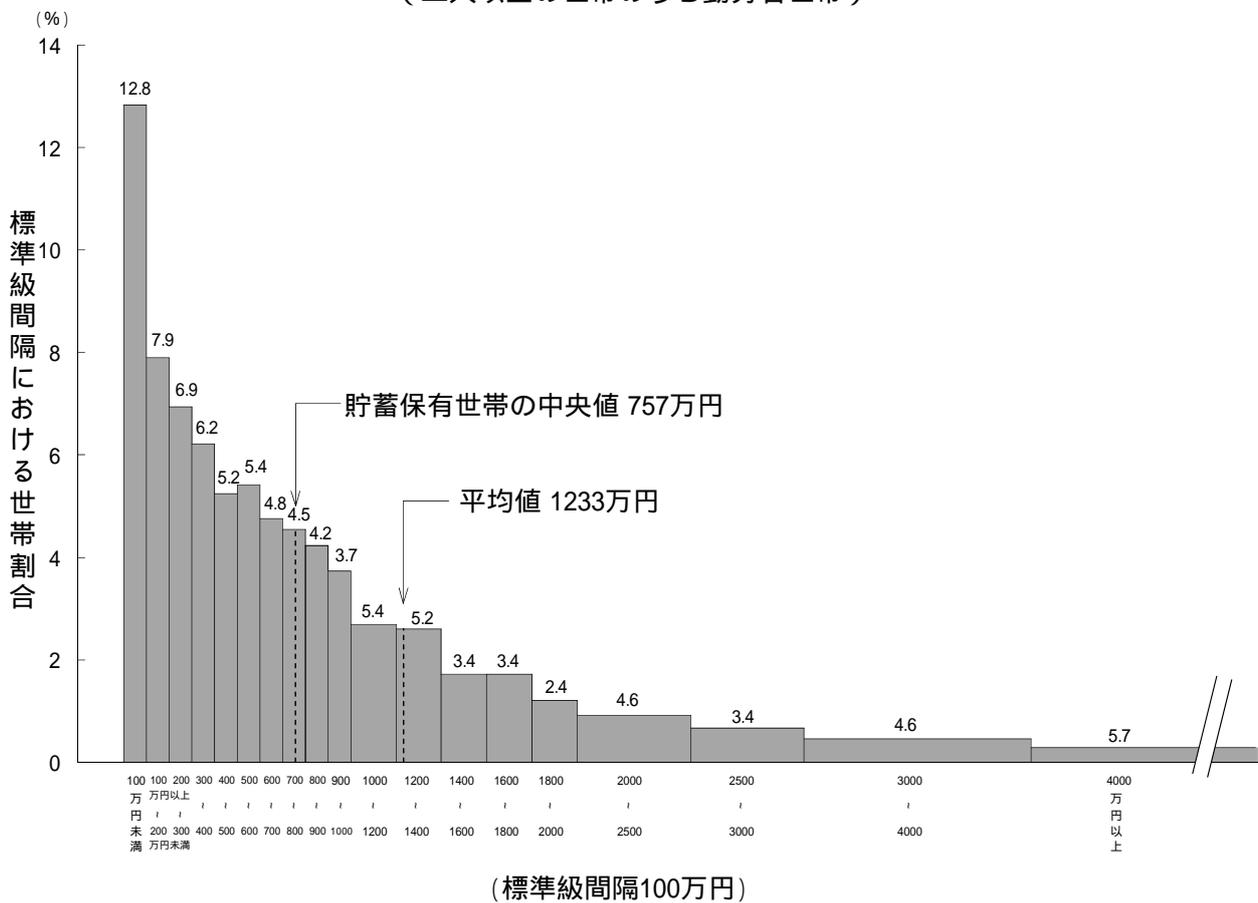
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1658万円）を下回る世帯が67.2%（前年67.9%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っている。貯蓄現在高が最も少ない100万円未満の階級が、二人以上の世帯に占める割合は10.6%となっており、前年（11.2%）に比べ0.6ポイントの低下となった。

このうち勤労者世帯についてみると、100万円未満の階級が勤労者世帯に占める割合は12.8%で、前年（13.0%）に比べ0.2ポイントの低下となった（図1）。

図1 貯蓄現在高階級別世帯分布 - 平成24年 -
(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



2 貯蓄の種類別内訳

(1) 二人以上の世帯及び勤労者世帯共に通貨性預貯金は増加傾向

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が724万円(貯蓄現在高に占める割合43.7%)と最も多く、次いで「生命保険など」が365万円(同22.0%)、通貨性預貯金が336万円(同20.3%)、有価証券が193万円(同11.6%)、金融機関外が40万円(同2.4%)となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が479万円(同38.8%)と最も多く、次いで「生命保険など」が313万円(同25.4%)、通貨性預貯金が279万円(同22.6%)、有価証券が105万円(同8.5%)、金融機関外が56万円(同4.5%)となっており、二人以上の世帯と同様の順になっている。

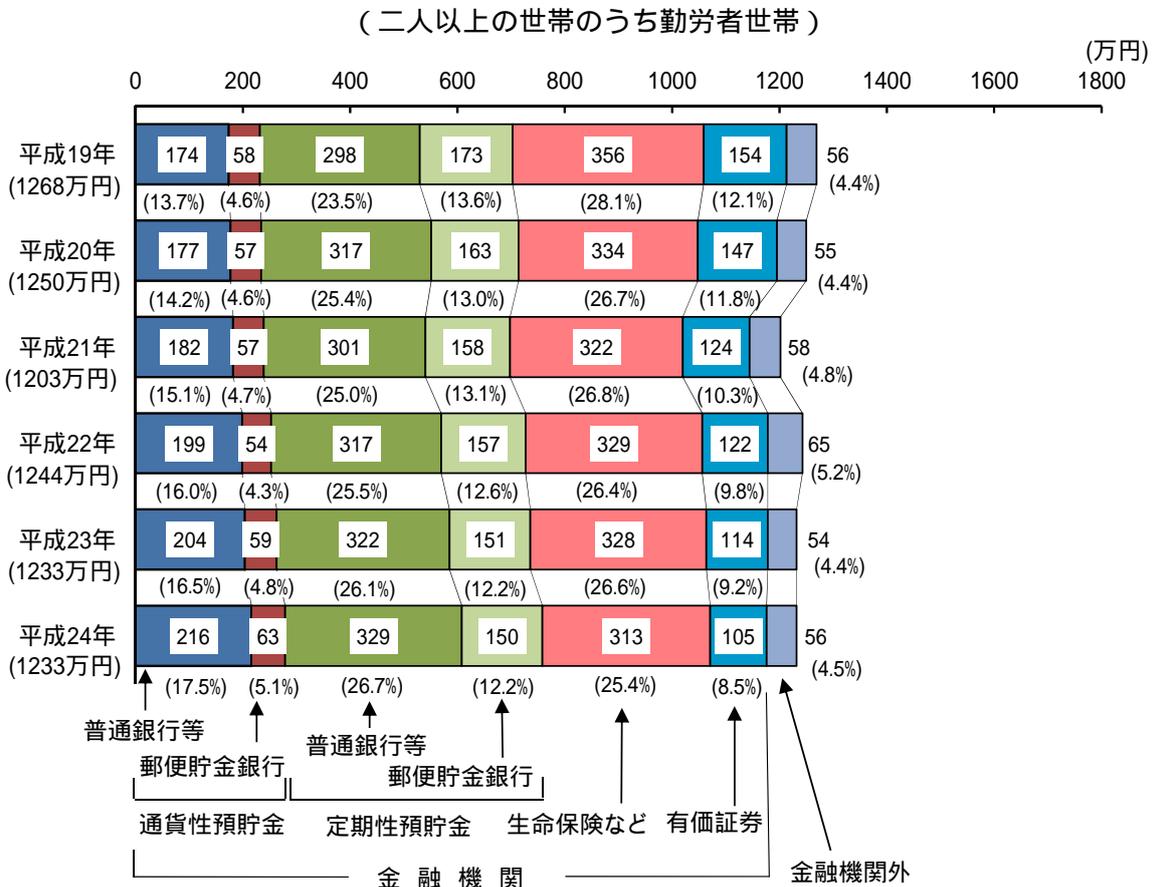
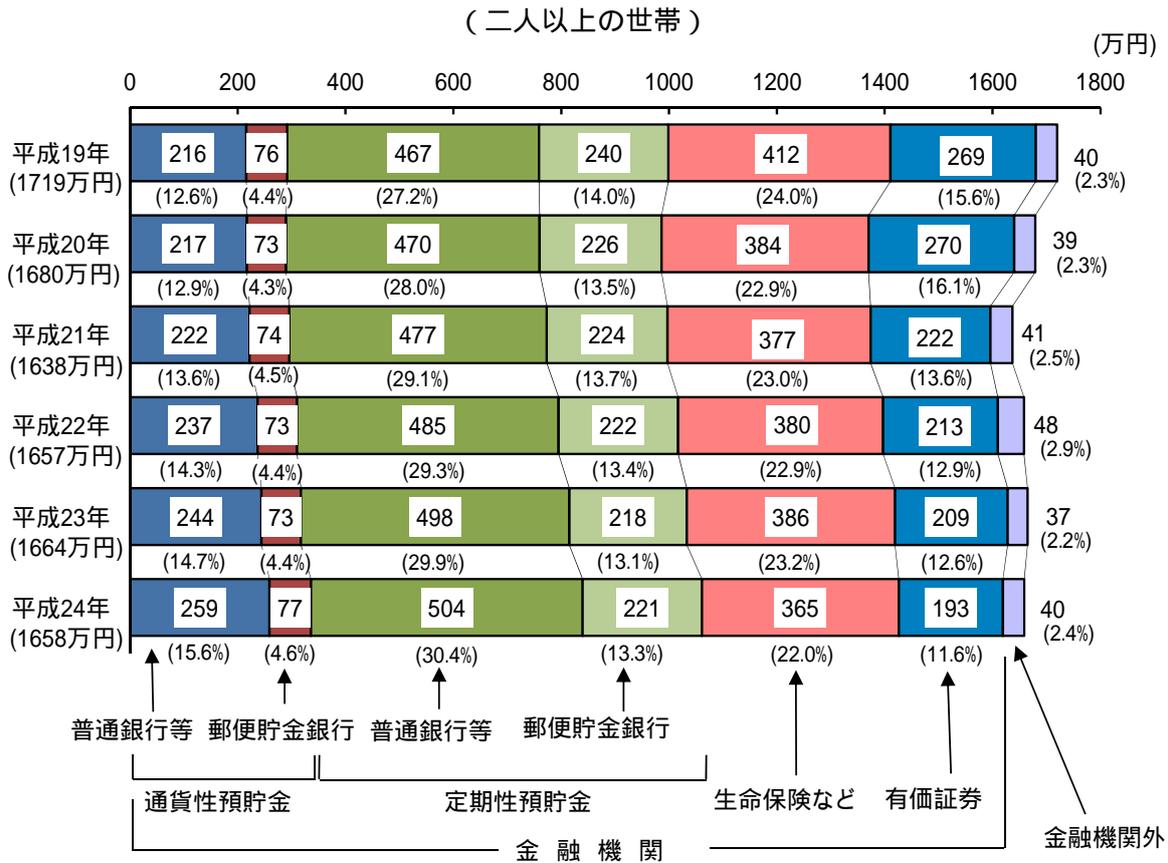
平成19年以降の貯蓄現在高の推移をみると、定期性預貯金は、二人以上の世帯で21年以降増加が続いているが、勤労者世帯ではおおむね横ばいで推移している。「生命保険など」は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共におおむね減少傾向となっている。通貨性預貯金は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に増加傾向となっており、特に勤労者世帯は調査を開始した平成14年以降10年連続の増加となっている。有価証券は、二人以上の世帯では平成21年以降、勤労者世帯では20年以降減少が続いている(表2、図2)。

表2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移

項目	二人以上の世帯																	
	平成19年			平成20年			平成21年			平成22年			平成23年			平成24年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1719	100.0	-0.2	1680	100.0	-2.3	1638	100.0	-2.5	1657	100.0	1.2	1664	100.0	0.4	1658	100.0	-0.4
金融機関	1679	97.7	0.2	1640	97.6	-2.3	1597	97.5	-2.6	1610	97.2	0.8	1627	97.8	1.1	1618	97.6	-0.6
通貨性預貯金	292	17.0	2.8	290	17.3	-0.7	296	18.1	2.1	311	18.8	5.1	317	19.1	1.9	336	20.3	6.0
普通銀行等	216	12.6	2.9	217	12.9	0.5	222	13.6	2.3	237	14.3	6.8	244	14.7	3.0	259	15.6	6.1
郵便貯金銀行	76	4.4	4.1	73	4.3	-3.9	74	4.5	1.4	73	4.4	-1.4	73	4.4	0.0	77	4.6	5.5
定期性預貯金	707	41.1	-1.4	696	41.4	-1.6	701	42.8	0.7	707	42.7	0.9	716	43.0	1.3	724	43.7	1.1
普通銀行等	467	27.2	1.7	470	28.0	0.6	477	29.1	1.5	485	29.3	1.7	498	29.9	2.7	504	30.4	1.2
郵便貯金銀行	240	14.0	-7.0	226	13.5	-5.8	224	13.7	-0.9	222	13.4	-0.9	218	13.1	-1.8	221	13.3	1.4
生命保険など	412	24.0	-3.3	384	22.9	-6.8	377	23.0	-1.8	380	22.9	0.8	386	23.2	1.6	365	22.0	-5.4
有価証券	269	15.6	8.5	270	16.1	0.4	222	13.6	-17.8	213	12.9	-4.1	209	12.6	-1.9	193	11.6	-7.7
株式・株式投資信託	182	10.6	9.6	171	10.2	-6.0	139	8.5	-18.7	134	8.1	-3.6	134	8.1	0.0	126	7.6	-6.0
貸付信託・金銭信託	14	0.8	-6.7	15	0.9	7.1	13	0.8	-13.3	11	0.7	-15.4	12	0.7	9.1	10	0.6	-16.7
債券・公社債投資信託	73	4.2	9.0	85	5.1	16.4	70	4.3	-17.6	68	4.1	-2.9	63	3.8	-7.4	57	3.4	-9.5
金融機関外	40	2.3	-16.7	39	2.3	-2.5	41	2.5	5.1	48	2.9	17.1	37	2.2	-22.9	40	2.4	8.1

項目	うち勤労者世帯																	
	平成19年			平成20年			平成21年			平成22年			平成23年			平成24年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1268	100.0	0.3	1250	100.0	-1.4	1203	100.0	-3.8	1244	100.0	3.4	1233	100.0	-0.9	1233	100.0	0.0
金融機関	1212	95.6	1.2	1195	95.6	-1.4	1145	95.2	-4.2	1179	94.8	3.0	1179	95.6	0.0	1177	95.5	-0.2
通貨性預貯金	232	18.3	6.4	234	18.7	0.9	240	20.0	2.6	253	20.3	5.4	263	21.3	4.0	279	22.6	6.1
普通銀行等	174	13.7	5.5	177	14.2	1.7	182	15.1	2.8	199	16.0	9.3	204	16.5	2.5	216	17.5	5.9
郵便貯金銀行	58	4.6	9.4	57	4.6	-1.7	57	4.7	0.0	54	4.3	-5.3	59	4.8	9.3	63	5.1	6.8
定期性預貯金	471	37.1	-2.9	479	38.3	1.7	460	38.2	-4.0	475	38.2	3.3	473	38.4	-0.4	479	38.8	1.3
普通銀行等	298	23.5	1.4	317	25.4	6.4	301	25.0	-5.0	317	25.5	5.3	322	26.1	1.6	329	26.7	2.2
郵便貯金銀行	173	13.6	-9.4	163	13.0	-5.8	158	13.1	-3.1	157	12.6	-0.6	151	12.2	-3.8	150	12.2	-0.7
生命保険など	356	28.1	-0.6	334	26.7	-6.2	322	26.8	-3.6	329	26.4	2.2	328	26.6	-0.3	313	25.4	-4.6
有価証券	154	12.1	13.2	147	11.8	-4.5	124	10.3	-15.6	122	9.8	-1.6	114	9.2	-6.6	105	8.5	-7.9
株式・株式投資信託	104	8.2	13.0	94	7.5	-9.6	75	6.2	-20.2	76	6.1	1.3	77	6.2	1.3	67	5.4	-13.0
貸付信託・金銭信託	9	0.7	-10.0	8	0.6	-11.1	11	0.9	37.5	6	0.5	-45.5	7	0.6	16.7	5	0.4	-28.6
債券・公社債投資信託	41	3.2	20.6	45	3.6	9.8	38	3.2	-15.6	39	3.1	2.6	30	2.4	-23.1	33	2.7	10.0
金融機関外	56	4.4	-15.2	55	4.4	-1.8	58	4.8	5.5	65	5.2	12.1	54	4.4	-16.9	56	4.5	3.7

図2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

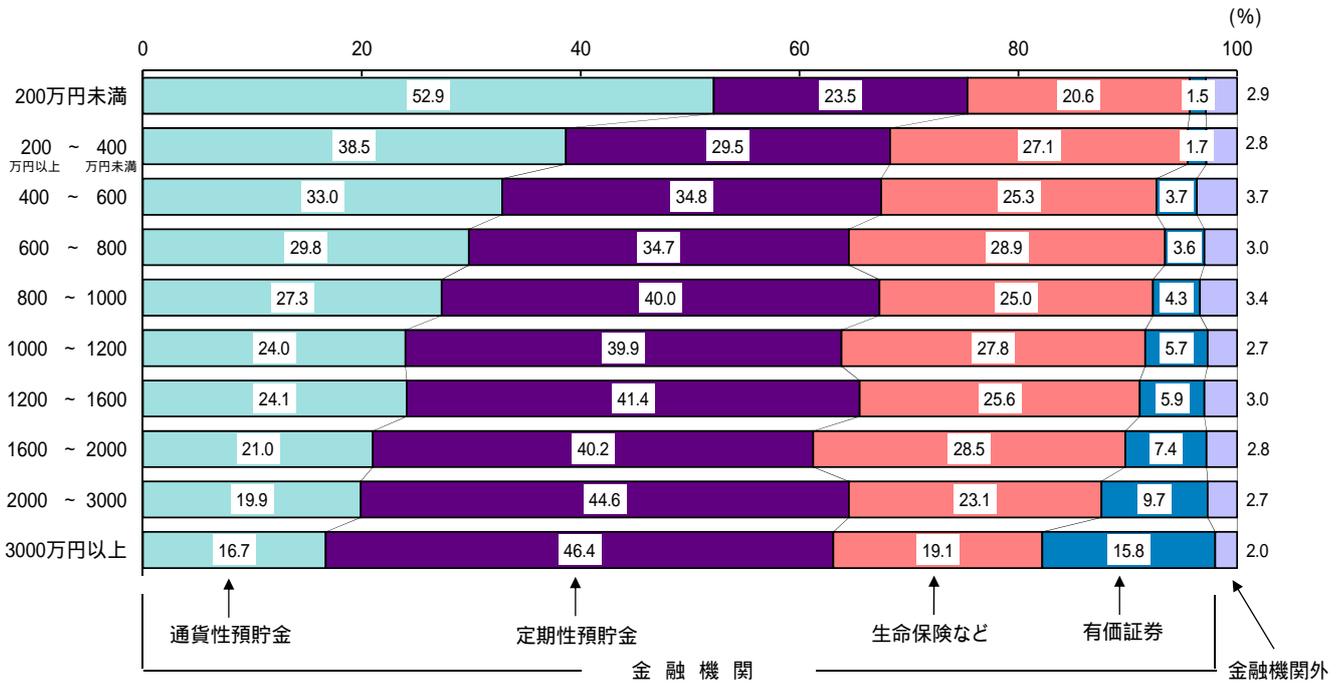
(2) 貯蓄現在高が多い世帯ほど有価証券の割合が高い

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が少ない世帯ほどおおむね通貨性預貯金の割合が高く、貯蓄現在高が多い世帯ほどおおむね定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなっている(表3, 図3)。

表3 貯蓄現在高階級, 貯蓄の種類別貯蓄現在高(二人以上の世帯) - 平成24年 -

項目	平均	200万円	200	400	600	800	1000	1200	1600	2000	3000
		未 満	万円以上 ~ 400 万円未満	~ 600	~ 800	~ 1000	~ 1200	~ 1600	~ 2000	~ 3000	万円 以上
金額(万円)											
年間収入	606	475	530	563	573	600	601	633	627	645	779
貯蓄現在高	1658	68	288	491	689	885	1091	1380	1780	2437	5324
金融機関	1618	66	279	473	668	855	1061	1339	1731	2369	5220
通貨性預貯金	336	36	111	162	205	242	262	333	374	484	889
定期性預貯金	724	16	85	171	239	354	435	571	716	1087	2472
生命保険など	365	14	78	124	199	221	303	353	508	563	1017
有価証券	193	1	5	18	25	38	62	82	132	236	843
金融機関外	40	2	8	18	21	30	29	41	49	67	105
構成比(%)											
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	97.6	97.1	96.9	96.3	97.0	96.6	97.3	97.0	97.2	97.2	98.0
通貨性預貯金	20.3	52.9	38.5	33.0	29.8	27.3	24.0	24.1	21.0	19.9	16.7
定期性預貯金	43.7	23.5	29.5	34.8	34.7	40.0	39.9	41.4	40.2	44.6	46.4
生命保険など	22.0	20.6	27.1	25.3	28.9	25.0	27.8	25.6	28.5	23.1	19.1
有価証券	11.6	1.5	1.7	3.7	3.6	4.3	5.7	5.9	7.4	9.7	15.8
金融機関外	2.4	2.9	2.8	3.7	3.0	3.4	2.7	3.0	2.8	2.7	2.0
構成比の対前年変化幅(ポイント)											
貯蓄現在高											
金融機関	-0.2	-1.4	0.0	0.0	0.0	-0.9	1.1	-0.6	0.0	0.2	-0.4
通貨性預貯金	1.2	2.9	2.9	1.2	1.9	1.0	2.4	2.0	0.3	1.4	0.9
定期性預貯金	0.7	-1.5	-2.7	0.5	-1.1	1.2	0.1	1.5	-2.6	-2.1	2.1
生命保険など	-1.2	0.0	0.5	-2.0	-0.7	-2.6	-1.0	-2.7	2.8	0.7	-1.9
有価証券	-1.0	0.0	-0.7	0.8	0.1	-0.6	-0.4	-1.5	-0.6	0.3	-1.5
金融機関外	0.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.9	-1.1	0.6	0.0	-0.4	0.4

図3 貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯） - 平成24年 -



3 貯蓄現在高階級別貯蓄の分布状況

4000万円以上の貯蓄を保有する世帯は全体の約1割で貯蓄全体の約4割を占める

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に世帯割合をみると、500万円未満の世帯が最も多く、平成24年は全体の31.7%となっており、これらの世帯の貯蓄額の割合は貯蓄全体の3.8%となっている。また、4000万円以上の世帯は全体の10.4%となっており、貯蓄全体の40.7%となっている。

平成14年と比べると、貯蓄現在高が500万円未満の世帯は、世帯割合は3.0ポイントの上昇、貯蓄額の割合は横ばいとなっている。また、貯蓄現在高が4000万円以上の世帯は、世帯割合は0.5ポイントの上昇、貯蓄額の割合は1.1ポイントの上昇となっている（図4）。

図4 貯蓄現在高階級別貯蓄の分布状況の推移（二人以上の世帯）

